

10. 西岩田石田神社

八幡市岩田茶屋ノ前に所在し、集落の北方に位置する。東岩田石田神社の項で述べたように、かつては御靈神社と呼ばれていた。周辺の字名には大將軍がある。『村誌』によると五十日帶命を祭神とし、猿田彦命の名も挙げるが詳細不明としている。また、『山州名跡志』には、岩田村の御靈社をあげ、木柱鳥居や御靈大明神の扁額の存在を伝えており、18世紀初め頃の当社の状況がうかがえる。

現状では近年におこなわれた境内整備により、新しい石燈籠が林立する状況となっている。古くからの石燈籠なども残されており、最も古いものは明暦2年（1656）に遡り、それに次ぐ元禄年間のものも含め、「御靈大明神」の名を記している。現在の鳥居は昭和39年（1964）のものであるが、その脇に古い鳥居の柱が横たわっており、その銘から宝永元年（1704）のものであることがわかる。このほか安政3年（1856）の石燈籠、さらには明治20年（1887）の狛犬を含め、東岩田石田神社の石造物と平行して建立がおこなわれていることがうかがえ、興味深い。

西岩田の集落中心部には愛宕燈籠が建てられており、宝永4年（1707）の建立である。「辻燈籠」とされており、当初から愛宕神を対象とするものであったかどうかは確証がない。なお、竿の形式と火袋とが合わず、後補された可能性が高い。この燈籠のすぐ近くに昭和2年（1927）10月に三宅安兵衛の遺志によって建てられた道標があり、岩田渡舟と岩田社、内里を案内している。おそらく石田神社を顕彰する意図で建てられたものであろう。

（菱田哲郎）

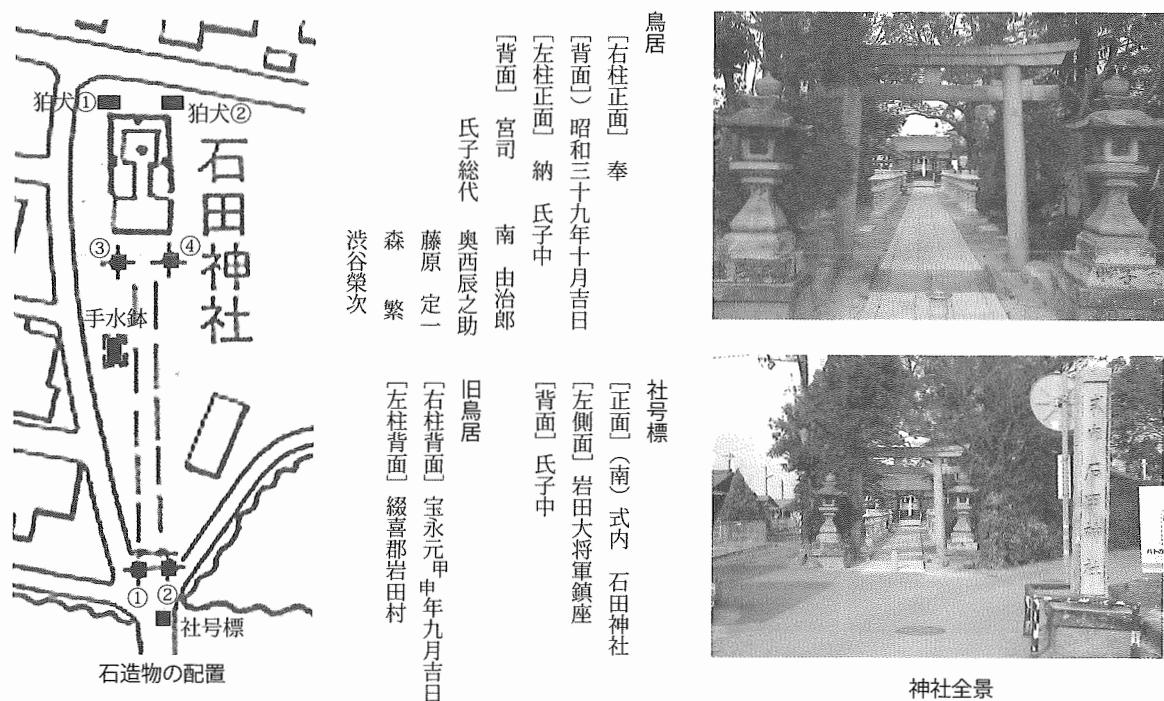


図 26 西岩田石田神社（1）

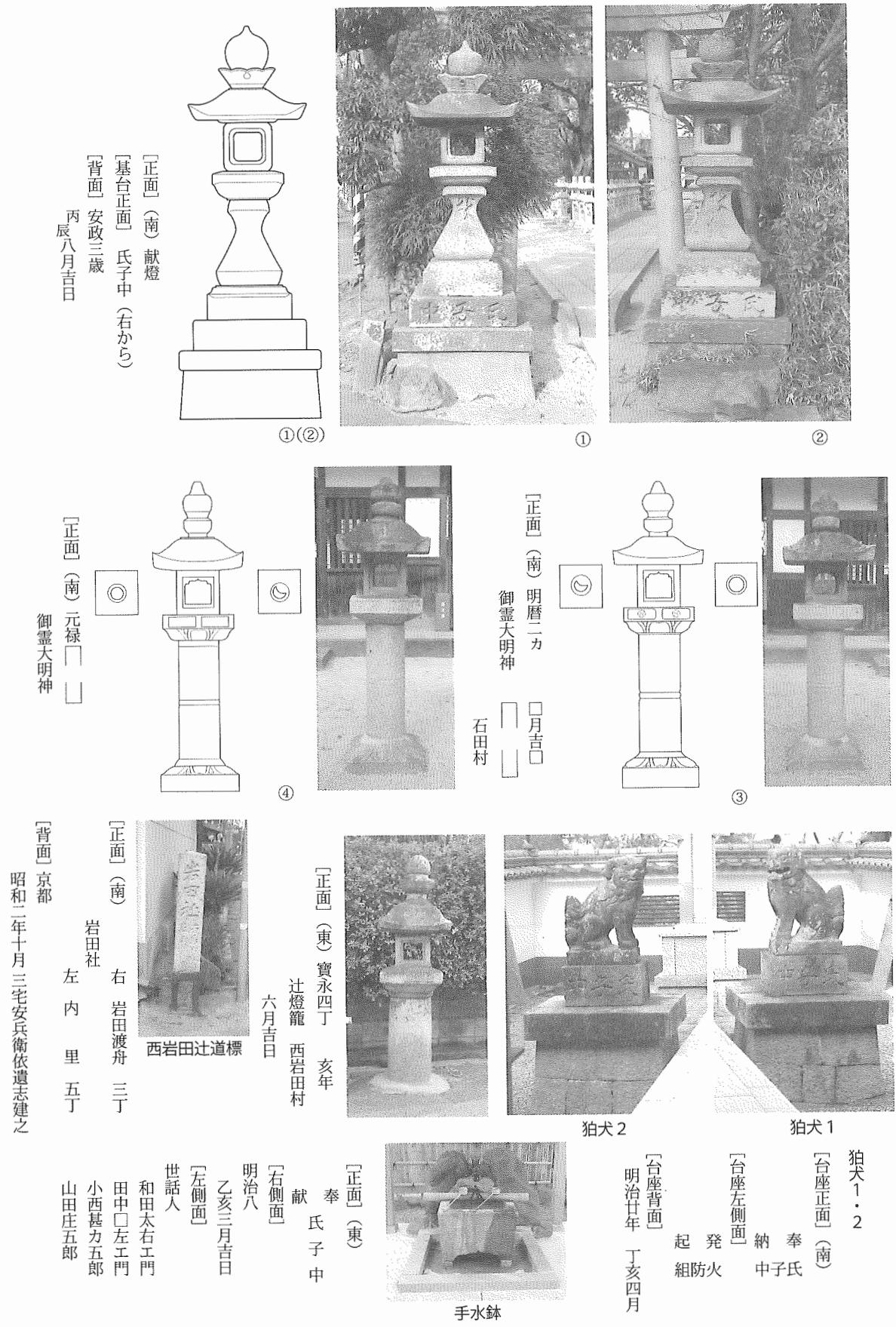


図 27 西岩田石田神社 (2)